

生ごみ堆肥化容器 使用方法

〈 設 置 方 法 〉

なにごととも始めが肝心！以下の要領で設置してください。

- ①陽当たりの良い場所を選ぶ
→温度が高いと発酵が促進され早く分解します。
- ②冬季間屋根雪の落ちない場所を選ぶ
→容器はプラスチック製です。落雪が直撃すると壊れることがあります。
- ③地面を10cm程度掘り容器を埋める
→中身が外に漏れないようにする。
- ④容器の底に枯れ草等を敷く
→使用時に余分な水分を抜く。

〈 注 意 事 項 〉

ただ生ごみを入れるだけでは堆肥どころか、腐った泥が溜まる状態になります、あまり中身を覗きたくはないと思いますが、時々チェックして以下の処置をしてください。

- ①水分を調節する
- ②酸欠の状態を防ぐ
- ③発酵菌を利用する

堆肥づくりでの重要なポイントは適度な水分に保つということです。多すぎると生ごみの中に空気の入り込む隙間がなくなり、発酵菌が十分に活動できなくなってしまいます。水気がありすぎる場合は**落ち葉、枯れ草など乾いた繊維質のもの**を入れておけば①②は一気に解決されます。

また、早く堆肥を作りたいというときは、**適量の土**を時々ふりかけてください。**発酵促進剤**又は、**米ぬか**でもいいでしょう。

〈 そ の 他 〉

堆肥づくりでさけられないものが**虫の発生**です。これは、どうしても出てきます。虫も発生しないようでは考えものですが、なんとかしたい場合は、**中に土を一面に敷いて石灰を散布**してください。殺虫剤は絶対にさけてください！

ビニールの袋、プラスチック、金属類、ガラス、紙類など分解されないものは投入しないでください。